

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年10月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4078700210
法人名	社会福祉法人 明寿会
事業所名	グループホーム 夢想園
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市瀬高町松田481 (電話) 0944-63-2242
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年9月18日

## 【情報提供票より】(平成20年7月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u> <u>新築</u> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有( 円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年7月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	0	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低 85 歳	最高 98 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉山医院 山内医院 新船小屋病院 大田歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には田園地帯が広がり、遠くの間々が窓から眺められる自然に恵まれたホームである。ホームの中庭が広く作られており、3辺を各居室が、1辺をリビングで囲まれて、居ながらにして自然と接せられる空間となっている。四季折々の花が植えられ、時には日光浴やお茶を楽しむ憩いの場となっている。利用者の多くが高齢になっており、外出も近所や同敷地内に隣接する母体の特別養護老人ホームやデイサービスの行事に出かけることが多くなっている現状である。お孫さんがお友達と訪問されたとき、「おばーちゃん笑顔が増えたね」といって、利用者たちとの楽しい触れ合いのひと時となっている。有事の際は、母体の特別養護老人ホームとの協力体制が出来ており、利用者職員が安心して生活できる体制ができています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、理念の見直しや、同業者との交流が改善課題としてあげられていたが、管理者の異動もあって実施に至らなかった。出来るところから取り組んでいきたいと検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、全職員に自己評価の内容や意義を伝えている。前回の評価に対する職員の意見や法人役員会での意見助言を受けて、全職員で改善や自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者・家族代表者・行政・民生委員・地域住民・管理者・職員が参加している。写真を盛り込んだ資料を配布し、日々の生活や活動内容を報告している。問題点や外部評価について参加者から貴重な意見や助言を受けている。会議で討議された内容は全職員でサービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	運営推進会議や面会時などで家族の意見や苦情などを把握している。時には、家族が望む本人の居室で職員が向き合っけて聞き取りを行っている。意見、不満、要望が出された時はその都度、職員間で話し合ったり、法人代表等に相談し運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町主催の文化祭に参加したり、近所の散歩や買い物などで地域の方たちの出合いを大切にしている。コスモス観賞に出かけ、地域の子供たちと一緒に過ごしたり、利用者のお孫さんが友達とホームを訪問し、楽しく過ごしたりして利用者や触れ合っている。近所の利用者の親族には敬老会への参加を呼び掛けている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回、理念の見直しへの期待にあげられていた「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けること」を目指した理念を掲げるには至っていない。	○	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスの役割を理解し、「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けること」を目指し、ホームと地域の関係性を理念にかかいがられることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りではホームの理念を唱和している。月1回の全体会議や研修会で理念の大切さや実践に向けての確認を行い日々の利用者との関わりのなかに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町主催の文化祭に参加したり、近所の散歩や買い物で言葉を交わしたりしている。コスモス観賞に出かけ、地域の子供たちと一緒に過ごしたり、入居者のお孫さんが友達と一緒に訪問され楽しく過ごしたりして利用者と触れ合っている。近隣の独居高齢者を招いての食事会を計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、全職員に評価の内容・意義を伝え、全職員が項目別に取り組み、管理者が記入した後全職員で最終確認している。前回の評価に対する職員の意見や法人役員会での意見、助言を受けて、できることから全職員が改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表者・行政・民生委員・地域住民・管理者・職員等が参加して実施している。会議では、行事写真を盛り込んだ資料を配布し、ホームの生活、活動の報告を行っている。質疑応答での意見や他のホームの現状などを聞き、ホームの活動に活かせるように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは訪問したり電話連絡を行ったりして日頃から連携を保ちサービスの向上に努めている。生活保護受給者についての相談や対策などについても早期対応が来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、身元引受人のことで問題に取り組んでいる。権利擁護に関する理解を深めるために管理者を中心に関係者と密に連絡を取り支援ができるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の請求書送付と、利用者の日々の様子や活動を写真にし、2ヶ月に1回ホーム便りを発送している。面会時には職員の異動などホームの様子や利用者の状態を報告している。遠方の方には状況に応じて電話連絡などで報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などで家族の思いや意見を把握している。介護相談を受け入れており、利用者、家族が外部者へ意見、苦情を表せる機会をつくっている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の場合、基本的には1ヶ月前に申し出るようにしている。健康状態などで間をおかずに退職する場合もあるが、利用者への影響を最小限に抑えるために、同敷地内にあるデイサービスや特別養護老人ホームへの行事などの交流で職員とも馴染みの関係を築いて代行ができるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、資格や経験だけにとらわれずに面接し、採用を行っている。また、職員一人一人の希望を聞き入れ無理のない勤務体制、時間休などに配慮し、職員が働きやすい環境づくりに努めている。料理の得意な人、歌の好きな人など一人ひとりの職員が生き生きと活動できるように取り組んでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、日々の業務の中で人権を損なうような言動が見られるときはその場で職員に指導助言をしている。人権学習にも参加し、人権を尊重する介護の実践に向けての教育に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者、2年目、3年目と経験に応じて研修を行っている。法人主催の研修や外部研修への参加も職員の勤務体制を整えて参加できるようにしている。月1回の職場会議などで伝達研修をし、職員の育成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会がないこともあって、現時点での同業者との連携や交流は行われていない。	○	運営者は県や他の市町村のグループホーム連絡協議会の情報などを得て、管理者や職員が同業者と勉強会や相互訪問などで交流を実現し、サービスの質の向上に活かされる取り組みが望まれる。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学は、いつでもできるようにホームを開放しており、希望者には1日利用者と一緒に過ごしていただき食事や会話をして馴染んでもらっている。利用者や家族に徐々に馴染んでいただき安心してサービスが利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人生経験で培われた特技や能力(魚の煮付け方・お雛様の季節料理など)を日常生活やレクリエーションなどに取り入れ、職員と共に学びあったり楽しみを共にし、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に本人や家族等から生活歴、趣味、要望、意向等の情報の把握に努めているが、利用者の多くは要介護度が進み思いをうまく伝えられない様態である。日々の暮らしの中で表情やしぐさ等から推察し、家族や全職員と情報交換をしながら、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや、家族、かかりつけ医等から得た要望、意向を基に、全職員でその方に必要なケアの方針や問題点を話し合っている。本人の思いが反映された、興味のあることや楽しみのある介護計画の作成に取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月開催される職員会議時に職員の気づきや情報を取り入れ、利用者一人ひとりの状態の把握と見直しを行っている。状態変化時は本人、家族、医療関係者、全職員等と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの場所や受診の同行、入院時の見舞いと洗濯物の持ち帰り、希望があれば家族の宿泊受け入れ等、本人や家族の状況その時々々の要望に応じて、臨機応変かつ柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との協力医療機関は複数あるが、今までのかかりつけ医の受診を家族や職員が同行し支援している。同行できない家族は直接かかりつけ医と連絡を取り合い、受診結果に関する情報を共有している。月2回の訪問診療を受け、24時間適切な医療受診体制を築いている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い、意向を把握し同意書を交わしている。利用者の多くは高齢であり急変時に備えて本人、家族、医療関係者、全職員等と終末期ケアの対応と方針を共有している。家族等の最終決断を尊重し支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの様態に合わせた対応や、プライバシーを尊重した言葉かけが見受けられた。記録等の個人情報は事務室で管理、保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが起床から就寝まで、利用者の思いを最優先している。食後もほとんどの利用者は、リビングルームの長椅子でおしゃべりや好きなテレビ番組を楽しんだり横になって休息している。その時々々の状態に合わせ、本人が心地よいと思える過ごし方を支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のそれぞれの得意分野で、職員と一緒に食事の準備を楽しんでいた。個々の利用者の体調や気分に合わせて配慮しながら疲れの残らない範囲でおしぼりの準備を楽しんでいる。利用者職員は同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら和やかな雰囲気と同じ物を食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望を確認し、日曜日を除く毎日午後2時30分から、一人ひとりの希望に添った入浴を支援している。いまのところ朝風呂や夜間入浴の希望者はいない。入浴を拒む場合は、時間をおいて声かけ等の工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	疲れの残らない範囲でおしぼり巻きや、家族から届けられた花や植木の世話をしている。毎日の新聞の中から明るい記事をとりあげ話題にしたり、馴染み深い物語の紙芝居や紙風船ゲームを楽しんでいる。車や車いすを使い、ドライブをかねて四季折々の花見、地域の行事見学、ショッピング等の気晴らしを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の多くは独歩が困難な様態である。その日の天候や体調と希望を確認し、車や車いすを使い散歩や馴染みの場所へ出かけられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、居室や玄関は施錠していない。玄関に鈴をつけて人の出入りを把握し、自由な暮らしを支援している。同敷地内に隣接する母体の福祉施設と、見守りや声かけ、連絡等の協力体制を確立している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した災害時の手順書と組織図を作成し、年1回避難訓練を実施している。同敷地内に隣接する母体の福祉施設と火災報知機ベルが連動されており、緊急連携協力体制を確立している。非常用食料、飲料水、備品を準備している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握している。母体の管理栄養士に利用者の好みを伝え、献立を作成依頼している。一人ひとりの状態に合わせた調理方法で食が進むように工夫している。個人別に毎食の食事摂取量と水分摂取量を記録し全職員は情報を共有している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は中庭を中心に、3辺を各居室が、1辺をリビングルームで囲まれた回廊作りになっており、共用の空間は車いすでらくに移動ができる。中庭にテーブルと椅子が設置されており、食事やお茶を楽しみながら季節の移り変わりを肌で感じることができる。台所から卵焼きのよい香りが五感を刺激する。家庭的で居心地よく過ごすための工夫がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は使い慣れた家具や思いのこもった物を持ち込み、本人が安心して居心地よく過ごせるように、利用者と一緒に配置している。床はフローリングであるが、利用者の好みにより畳敷きにすることもできる。</p>		